

《統合・分散分科会 検討資料》

【岡谷小学校に対する想い】

<自然豊かな教育環境>

<特色ある学校、教育>

- ・あかしあ窯による陶芸
- ・えんぴつタイム、学習指導研究等による学力保障
- ・感動や満足感の充足、学校生活の充実等による成長保障
- ・地域との協働による、地域に根ざした学校づくり

<課題>

- ・岡谷小の文化、伝統、歴史、先人の功労、地域に果たしてきた役割をどう継承し後世に伝えていくか。
- ⇒新しい魅力ある学校づくり、地域の拠りどころとなる拠点の検討

【通学距離の現状】

<岡谷小学校及び市内小学校通学区域における通学距離>

- ・現在、岡谷小へ通う児童の中で、最も遠い児童は約2.1km (*資料②)
- ・市内では、長地小、湊小、川岸小において、2kmを超える距離を歩いて通う児童あり (*資料③)
- ・岡谷小学校周辺の最寄りの小学校までの通学距離 (*資料④)
- ・通学距離という観点では、岡谷市は非常に恵まれている

<課題>

- ・児童が疲労を感じない程度の通学距離の確保
- ⇒適正な通学距離、通学環境の検証
- ⇒通学バスの運行 (基本的には徒歩通学とし、選択肢としての通学バス)
- ・通学上の安全をどう確保するか
- ⇒安全で現実的な通学路の選定 (土砂法、急傾斜地法の指定区域の回避など)
- 歩道整備、グリーンベルト、ゾーン30、登校見守り等
- 交通頻繁道路、鉄道路線等の回避
- 人通りの少ない場所の回避
- 現地踏査による安全な通学路の選定、通学バスの運行等

【少子化の進展】

<市内の児童生徒数>

- ・昭和57年(1982年) 9,454人 → 平成25年(2013年) 4,338人

<長野県の児童生徒数>

- ・平成47年(2035年)には現在の約6割まで減少することが推計されている。

<課題>

- ・学校規模が縮小し様々な課題が生じることへの全市的な対応
- ⇒将来を見据えた今後の研究課題
- ・将来の学校統合のモデルとなる取組み

【岡谷小学校の現状】

- ①他校の校舎には見られない特異な変状 ②軟弱な地盤 ③潜在的な地すべり地形 ④耐震化されていない校舎
- ⇒現地存続にしても移転にしても、対応に長期間を要するためH28年4月以降の児童の安全安心な学習環境を確保する方策が必要 *資料①

「分散(魅力ある新たな学校づくり)」

or 「〇〇小学校との統合(魅力ある新たな学校づくり)」

- *岡谷小学校の文化、伝統、歴史の継承、通学距離の現状、将来の児童数の減少、財源、移行期間等を考慮すると、BestではないがBetterな方法
- *ただし、●地域ごとの選択(通学区の見直し)も視野に・・・

例えば、

間下区 ⇒ 神明小学校
岡谷区 ⇒ 田中小学校
新屋敷区 ⇒ 田中小学校

- *ただし、保護者の選択を考慮 *資料⑤
- *選択を考慮した学校規模の検証 *資料⑥

(例)
月見ヶ丘・夕日山⇒神明小学校
成田町・御倉町 ⇒川岸小学校

<現有施設との対比> *資料⑦

〔神明小学校〕 〔田中小学校〕 〔川岸小学校〕
2~4部屋の増 3~8部屋の増 0~3部屋の増

必要な施設整備

【魅力ある新たな学校づくりに向けた検討事項】

<基本的事項>

- ・将来を見据えた望ましい学校規模、学級規模

<どのような学校をつくるか>

- ・特色ある、魅力ある学校づくり
- ・ソフト面でどのような学校をつくるのか
- (例)低学年から少人数学習を徹底
- 英語教育の充実
- キャリア教育
- 地域に開かれた学校づくり「コミュニティスクール」
- 地域(知的)人材による学習支援ボランティア
- 保護者・地域との協働による学校づくり
- ・岡谷小の文化、伝統、歴史の継承、あかしあ窯の活用
- <統合に向けた検討>
- ・統合校、統合後の学校名、校歌、ランドデザインなど

<通学区の見直し>

- ・小学校までの通学距離と適正な通学路
- ・中学校区の見直しも含めた検討

<通学路の安全確保・不審者対策>

- 現有施設の状況等を勘案
- ・安全で現実的な通学路の選定
- ・歩道の整備、グリーンベルト、土砂法及び急傾斜地法の指定区域の回避、ゾーン30、登校見守り等
- 通学バスの運行

<教育サービスの向上>

- 全市的な通学バスの運行 (基本的には徒歩通学とし、選択肢としての通学バス)
- ・運動着等学用品費の補助 等

【環境の変化による児童の不安に対するケア・保護者の不安に対するケア】

- ・新しい学習環境へのスムーズな移行が重要
- ・平成28年4月にいきなり新しい環境でのスタートでは「NG」
- ・事前の学校間交流(授業、音楽会、学年行事等)
- ・交流行事の実施(地域の参画)
- ・教職員交流(特に同学年)
- ・教職員の加配、教員配置による配慮(人事)
- ・教職員の合同チームによる情報交換、情報共有
- ・子どもたちへのわかりやすい説明

- ・事前の教職員研修
- ・統合後における取組み
- これらの定期的な開催

「将来を見据えた、適正な学校配置と学校規模の検証」

◎川岸小学校のシルキーバスの利用状況

- ・安十分校の廃止に伴い、夏明地区、駒沢地区の1・2年生(平成25年度23名(1年生16名、2年生7名))の児童が利用
- ・利用者の通学距離は、2kmから3.7km
- ・最寄りのバス停から「西部中学校前」まで乗車

魅力ある新たな学校づくりに向けた準備委員会・専門部会による検討